令和８年 10 月６日

議会議長　鈴木　晴範　様

総務建設委員会
委員長　兵藤　慎一

閉会中における所管事務調査についての報告

函南町議会会議規則第 77 条の規定により、次のとおり報告いたします。

記

１　開催日時　　令和８年８月３日（月）午前９時 00 分

２　委員の出席状況　　委員全員出席　議長出席

３　調査事項

⑴　空き家の現状と対策について

町内の空き家の現状とその対策について説明を受けた。

令和４年度に実施した函南町空家実態調査の結果、空家候補と判断した件数は 284 件であり、空家候補の物的状態をみると、約３分の１に当たる 95 件は、管理が十分でないと判断される状態にあり、その中でも倒壊等の危険が切迫しているものが８件あったとのことであった。

空家等に対する町の取組みとして、令和２年度からは空き家無料相談会を県と共同で開催し、令和６年度からは空き家バンク制度を実施している。

また、今和８年度からの新しい取組みとして、空き家バンクへの物件登録に対して５万円を交付する函南町空き家バンク登録奨励金制度を開始し、空家等の発生防止及び流通の促進を図っているとのことであった。

今後、高齢化が進みこれまで以上に空家等が増加することが予想される。空家等の

流通と併せて空家等の発生を未然に防止する方法についても引続き調査・検討するよう努めていただきたい。

また、令和３年12月に認定した特定空家等については、一刻も早く状況を改善するよう対応していただきたい。

⑵　第七次函南町総合計画の進捗状況について

現在策定を進めている第七次函南町総合計画の進捗状況について説明を受けた。

社会のあらゆる分野においてデジタル化が進む中、コロナ禍によって町民生活も大きく変化し、従来のまちづくりから歴史的な転換期を迎えていることから、多様な立場からの意見を収集するために、まちづくりアンケートや町民ワークショップに加え、ホームページ等から意見を募集した。現在、収集した意見を第七次函南町総合計画に反映させるために、関係部署での調整・検討を進めているとのことであった。

また、町民の暮らしを大切にしながら、誰もが健康で、安心して生活でき、地域とのつながりを持ちながら函南町に住み続けることができるよう努め、将来に渡り、町民一人ひとりが幸せや生きがいを感じられるまちづくりを行う必要がある。そのため、将来の函南町を築くために必要な基本目標を定め、将来目指す姿の実現に向けた前期基本計画を整備していくとのことであった。

収集した貴重な意見を１つでも多く反映し、社会情勢の変化に的確に対応した、将来世代にわたり持続可能なまちづくりを推進する総合計画となるよう努められたい。

⑶　第３期函南町まち・ひと・しごと創生総合戦略について

現在策定を進めている第七次函南町総合計画と一体的なものとして、策定を進めている第３期函南町総合戦略について説明を受けた。

従来のものと異なり、総合計画と計画期間や基本目標などを関連づけ、一体的に策定することで計画間の整合性を図り、課題、目標及び方向性をより明確化し、将来都市像の実現に向け、効果的に事業を遂行することができるなどの期待ができるとのことであった。

本町は、伊豆半島の玄関口に位置し、豊かな自然環境や交通利便性を有する一方、少子高齢化の進行や若年層の町外流出による人口減少が課題となっている。本町の特性を活かした具体的な施策・事業による持続可能なまちづくりの実現を目指していただきたい。